

従来の文化行政にとらわれない発想とアプローチを。
6つの提言

1

安心・安全

地域住民の互いの顔が見える安心感を醸成します。

安心・安全な地域を築くためには、文化・芸術を媒介として住民同士がお互いに顔を見知っていて、相互のつながりや信頼関係を醸成していることが大切です。また非常時に協力し合うための経験や意識を楽しく共有することで、防災や防犯体制の強化につなげることに成功している事例もあります。

2

福祉

高齢者・障がい者の自己実現や生きがいづくりにつなげます。

文化・芸術へ高齢者が参加する機会を創り、障がい者は自らの芸術創造やアーティストとの協働で新しい表現を見出すなど、さまざまな取り組みが行われています。アーティストの自由な発想やアプローチは、「ケアする側・される側」という固定概念を刷新し、あらゆる市民が互いに支え合う社会を創っていきます。

3

教育

子どもたちが社会を生きるために必要な力を育みます。

文化施設による学校へのアウトリーチや、アートNPOによるワークショップ型の授業が増加したことで、文化・芸術と教育との連携は多様な成果を生んでいます。これらによって、社会を生きるために必要なコミュニケーションの力、イメージする力や行動する力、知識を活用する力、創造的な思考力などを育んでいます。

4

観光・商工

地域の観光資源となり、ブランド力形成や雇用創出も期待できます。

近年、文化・芸術を活用するフェスティバルやアートプロジェクトに注目が集まっています。これらを地域の観光資源とし、交流人口の増加や地域ならではの情報発信、面的な人の動きや回遊、賑わいにつなげる事例が増えています。また、地域産品のブランド力を形成し、将来的には雇用創出も期待できます。

5

地域の環境

地域の風土や景観の保存に対する住民の意欲が高まります。

地域外からの眼差しが向けられることで、周囲の街並みや環境に対する住民の意識が変わります。独自の風土や歴史、景観の保存整備に対して地域住民自らが主体的に取り組もうという意識、意欲が高まります。里山や里海の魅力を掘り起こし、「半農半芸」といった新しいスタイルの文化・芸術活動も見られます。

6

地域・コミュニティ

地域資源の再発見による魅力を形成し、課題への取り組みを促します。

地域住民が主体的に関わる取り組みでは、地元住民と移住民、世代間の交流など、新しい出会いを生み出しています。また、空き家や空き店舗などを改築・改装して文化・芸術活動の拠点とし、賑わいのあるまちづくりや地域課題への取り組みを行ったり、地域外からの移住や若者の定住に結びつく可能性も醸成します。

文化・芸術による地域の活性化には、
次の点に留意する必要があります。



1…………リーダーたる首長や行政幹部が文化・芸術には多様な行政効果があることを認識、理解していることが成功の鍵となります。その上で各種事業の目的や地域の将来像についての共通認識を持ち、積極的にメッセージを発信。地域住民と共有することが必要です。

2…………異なる価値観や異分野の取り組みを仲介し結びつけられる、媒体としての文化・芸術の特性を最大限に活用することが必要です。他の行政分野でも新たな価値や発想を引き出すことで、地域の活性化をもたらす多様な成果や効果に波及していきます。

3…………文化・芸術を通じた行政効果を実現するためには、文化活動や芸術作品の独自性や質的な価値を追求する姿勢が重要です。これこそが、文化・芸術が本来持っている力を引き出すことにつながります。ホール、劇場、美術館などの文化施設の本質的な役割もそこにあります。

4…………文化・芸術が地域に影響を及ぼすためには長い年月がかかります。したがって、短期的な視野で成果を求めるのではなく、長期的なビジョンを持つ必要があります。その際、直近の問題や課題に振り回されることなく、経験の蓄積を見守る度量や余裕が重要です。

5…………事業による成果や効果について、アウトプット（事業による直接的な結果）・アウトカム（事業の目的に照らした本質的な効果）・インパクト（直接的・間接的な社会的影響）などの階層ごとに整理・把握し、多様な立場や視点から評価を把握する姿勢が重要です。

6…………ホール、劇場、美術館などの文化施設は、事業運営での両輪である「文化・芸術の振興」と「文化・芸術による地域課題の解決」を推進する拠点として位置づけられます。文化施設が果たすべき機能や役割を大きく捉え、可能性を追求することが求められます。

7…………文化振興部局と他局との連携を推進し、首長のリーダーシップを発揮する推進体制の構築が有効です。縦割り行政の境界を越え、新たな施策の種を見出し、具体的な企画として推進するためには、さまざまな行政分野を横断して地域の課題を解決する文化・芸術の力が有効です。

調査研究報告書「地域における文化・芸術活動の行政効果」は、財団ホームページより閲覧・ダウンロードできます。
<http://www.jafra.or.jp/f/library/investigation/22-23/index.php>

提言検討委員会

太田耕人
京都教育大学教育学部英文学科教授

熊倉純子
東京藝術大学音楽学部音楽環境創造科教授

澤井安勇
帝京大学教育学部客員教授

高橋正樹
高岡市長

田辺国昭
東京大学公共政策大学院院長
東京大学大学院法学政治学研究科教授

平田オリザ
劇作家 | 演出家 | 大阪大学
コミュニケーションデザイン・センター教授

吉本光宏
株式会社ニッセイ基礎研究所
主席研究員・芸術文化プロジェクト室長

事例検討会

大谷燮
NPO法人DANCE BOX 代表

大月ヒロ子
有限会社アイデア代表取締役
ミュージアムエデュケーションプランナー

刈宿俊文
青山学院大学教授
NPO法人学習環境デザイン工房代表

中島諒人
演出家 | 鳥の劇場主宰

長谷川聡
北海道医療大学看護福祉学部准教授

藤浩志
アーティスト
NPO法人プラス・アーツ副理事長

若林朋子
社団法人企業メセナ協議会
シニア・プログラム・オフィサー

順不同 | 敬称略 | 肩書きは就任当時のもの



「地域における文化・芸術活動の行政効果」
——文化・芸術を活用した
地域活性化に関する調査研究 報告

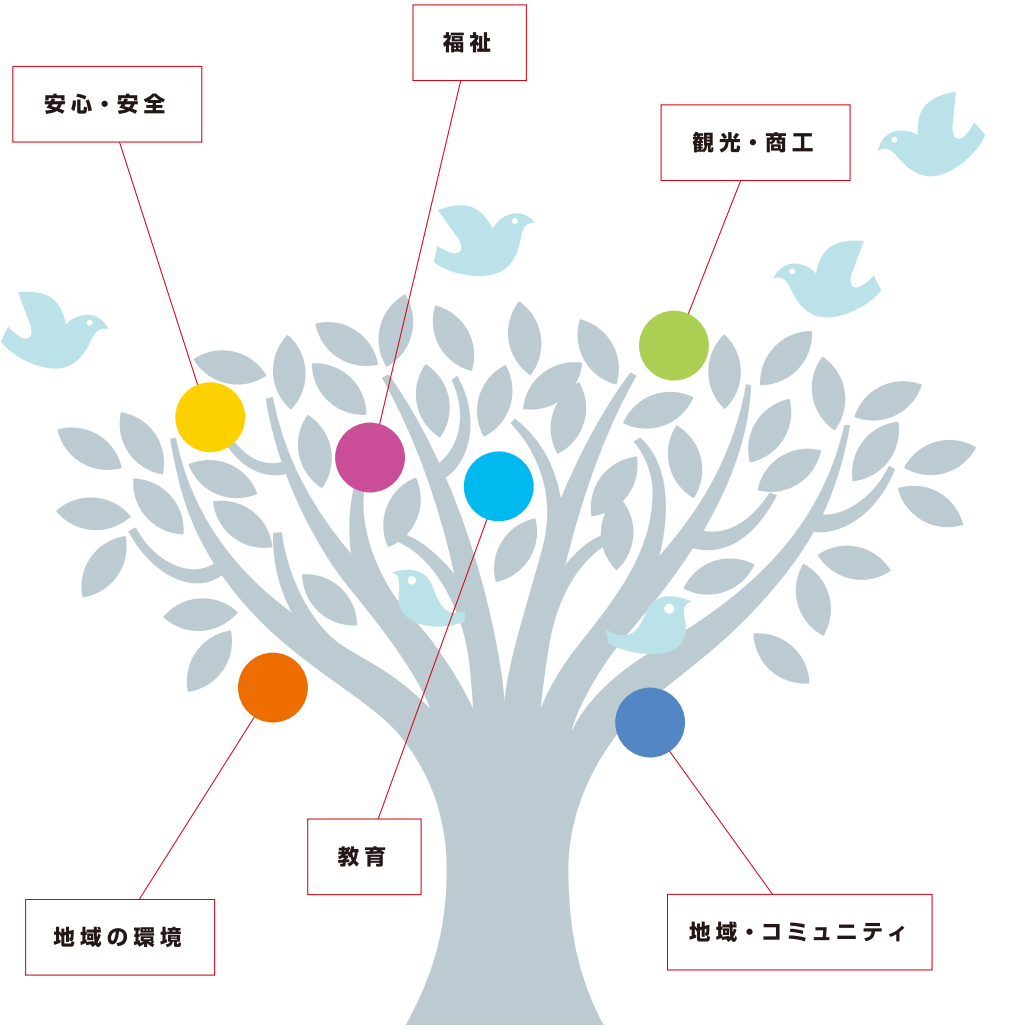
●——調査・発行
財団法人地域創造
107-0052 東京都港区赤坂 6-1-20
国際新赤坂ビル西館8階
tel. 03-5573-4050 | fax. 03-5573-4060

●——調査委託
株式会社ニッセイ基礎研究所
芸術文化プロジェクト室
102-0073 東京都千代田区九段北 4-1-7
tel. 03-3512-1883 | fax. 03-5211-1084
発行日: 平成24年10月
© [財] 地域創造 | [株] ニッセイ基礎研究所

地域の元気に、よく効きます。

地域を創造的に活性化させるには、文化・芸術の取り組みが欠かせません。地域における文化・芸術の役割を十分理解していただくため、当財団ではさまざまな調査研究を実施してきました。このリーフレットでは、その集大成とも言える、提言・代表事例・留意点を簡潔にまとめています。ぜひご覧ください。

財団法人 地域創造……………地域における文化・芸術活動の行政効果



文化・芸術が地域や住民にもたらす多様な効果や便益は、幅広い行政分野にわたります。地域の活力創出を目指すには、縦割り行政の境界を超えた異分野との取り組みが必要です。文化・芸術の潜在力が人々の価値観を変え、地域に革新をもたらすための提言をお届けします。



安心・安全



福祉



教育



観光・商工



地域の環境



地域・コミュニティ

従来の文化行政にない発想で実施された、代表事例をご紹介します。



東川町受賞作家展ギャラリートーク

A 「写真の町」東川町
北海道東川町

1985年から国際写真フェスティバル、95年から写真甲子園を開催するなど、写真の町としての事業を25年以上継続してきました。その結果、行政と住民が一体感を持って地域の魅力を生み出そうとの気運が高まり、地域の農産物をブランディングしたり、観光や産業の活性化にもつながりました。過疎に新たな価値を与えて「価値」に転換するのは文化しかない、と町長自らが先頭に立って文化事業を推進しています。



オープンアトリエの様子

B 神山アーティスト・イン・レジデンス
徳島県神山町

地元NPOによる国際交流事業立ち上げの後、県の国際文化村構想を受けて1999年に神山アーティスト・イン・レジデンス（KAIR）をスタート。「作家としてのキャリアや作品の評価よりも、アーティストと地域の関わりを重視したい」との思いで運営されてきました。国内外のアーティストが定住し始め、IT系のサテライトオフィスも誘致するなど、「開かれた田舎の魅力」「創造的過疎」の考え方で全国から注目を集めています。

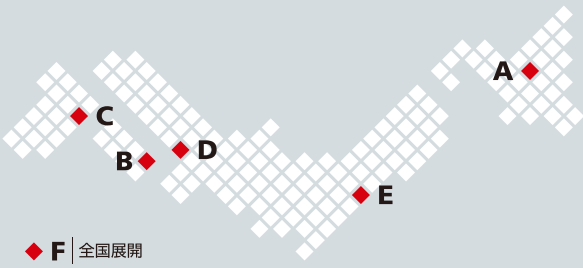


「混浴温泉世界」で制作された
マイケル・リン氏の作品(platform 04)

© 別府現代芸術フェスティバル「混浴温泉世界」実行委員会
撮影：久保貴史

C BEPPU PROJECT
大分県別府市

温泉地別府での国際芸術フェスティバル開催を目指して創設されたNPOが、2009年に行政とも連携しながら事業提案。空き店舗などの改修で8つの拠点を確保、地域の回遊性の向上に貢献しています。中心市街地全体を活用した現代芸術フェスティバルなどで、集客・交流人口が増大。文化・芸術が持つ「触媒」としての特性を活かし、行政・NPO・大学・民間企業のネットワークが広がり、地域資源の再発見や活用も促進されています。



◆ F | 全国展開



「劇団ティクバ+循環プロジェクト」

D DANCE BOX
兵庫県神戸市

神戸市に拠点を置くNPO法人DANCE BOXは「循環プロジェクト」と題した、障がい者のワークショップを継続して実施してきました。舞台表現を通じて、障がいのある人・ない人の境界線を越える試みとして始まり、ハードな稽古を重ねて新しい舞台づくりを行いました。その成果が認められ、国内4か所での再演や海外の劇場との共同制作など、地域を越えた活躍の場が広がっています。



平市民公園といわきアリオス

E いわき芸術文化交流館アリオス
福島県いわき市

文化施設を地域連携の拠点として、面白いことや大切なことを市民が話し合う「アリオス・プランツ!」を実施。「アリオスから発芽する出来事」をテーマに、何か面白いことができないかという市民のモヤモヤしたアイデアを持ち寄って話し合いながら発芽させるという活動です。離れた土地にも「おでかけアリオス」として出張型の事業を仕掛けるなど、この施設をプラットフォームとした文化・芸術活動で、社会的課題の解決に努めています。



カエルポイントの交換で
交流する子どもと大人

F イザ! カエルキャラバン!
全国展開

NPO法人プラス・アーツは、阪神・淡路大震災10周年事業をきっかけに、子どもたちが遊ばなくなったおもちゃを持ち寄ってかえっこするイベントと、バケツリレーや水消火器など防災をテーマにしたゲームを盛り込んだ「カエルキャラバン」を行っています。ゲームやスポーツ競技の感覚で災害時の防災訓練ができると評判を呼び、2011年時点で15都道府県、開催回数70回以上。ユニークなアプローチで防災への気づきを促し、地域連携も醸成された先進事例です。